

【配点】
1 各1点×40
1 2 3・2 4・3 2 各2点×16
2 7・3 1 各6点×2
4 18点 その他 各4点×12

1

36	31	26	21	16	11	6	1
きぐらい	青天	輸送	宇宙	名勝	勤劳	拝借	複雑
37	32	27	22	17	12	7	2
ふるかぶ	後天的	貧困	益鳥	悲喜	引責	優勢	貯金
38	33	28	23	18	13	8	3
ことこま	延長戦	看病	私腹	不順	細大	誕生	穀物
39	34	29	24	19	14	9	4
かみて	日照権	次善	耳目	精米	一矢	臓器	清潔
40	35	30	25	20	15	10	5
ふえて	方眼紙	旅券	暑気	編成	悪漢	再考	強要

2

3

①	板	①	光	1	ア	6	心
②	油	②	拾	2	イ	を	打
③	右	③	支	3	エ	た	れ
④	虫	④	不	4 A	息	る	よ
⑤	水	⑤	故	B	丸	う	な
				C	づ	大	人
				5	ウ		

(4 B「円」「輪」も可)

7

生徒一人一人の事情を思いやる坂	部先生のあたかさに心を打たれ	たから。
-----------------	----------------	------

(同意可)

8

学校の先生になろう

【配点】 1 各1点×40 1 2 3・2 4・3 2 各2点×16 2 7・3 1 各6点×2 4 18点 その他 各4点×12

3

1 「何らかの観点」にしたがい脳内に納めるか、すでに脳内にある語に結びつけて整理すること

(同意可)

4

2 A エ B ウ C イ 3 ウ 4 I 現在 おく (完答)

4 II 過去 必要 5 使う 「場面」 6 エ 7 イ (完答)

科学者はわかっていないこと、地震をわ
からないと言わなければならない地震予知を
学者も、できない地震予知をできなかった
るなどと言わず、地震が起きた
場合の防災にその知識を生かした
科学者の社会的責任を果たすべき
である。

(同意可)

1 (漢字)

おさえるべきポイントを意識しよう。5 「強要」、10 「再考」、13 「細大」、18 「不順」、22 「益鳥」、23 「私腹」などは同音異義語と混同しないように特に注意すべきであるし、1 「複雑」の「複」の「ころもへん」、6 「拝借」の「拝」の右側の横棒の数、11 「勤労」の「勤」の左側の線の数、28 「看病」の「看」の上部の線の数などは「形」に気をつけるべきである。もちろんすべての問題において「ことばとして知らない」ではいけないので、意味・用法を知らないものについてはしっかりと確認をして覚えておこう。

2 (慣用句)

① 「板」は舞台のことで、役者が経験を積んで芸が舞台にしつくりと調和したさまから。② 元はさまざまなものから油を取るときに締め木にかけて押しつぶしたさまから。③ 「右」は比較して優れているほうの意。古代中国で、座席の右のほうを上位にしたことから。「左遷」(低い地位に落とす)も関連づけて覚えることができる。④ 自分の体内にいる「虫」の機嫌がよいようにする意から。「腹の虫が治まらない」「虫の居所が悪い」の「虫」も同じ意味の「虫」である。⑤ 水を注ぎ込んで、薄めたり冷やしたりする意から。

3 (対義語)

① 「光明」は明るい光。逆境の中で見出す明るい兆しのこととさす。「こうみよう」と読むことも覚えておこう。② 「拾得」は落とし物を拾うこと。形が似ている「捨」を書かないようにしよう。「捨」の音読みは右側の「舎」にしたがって「シャ」であり、「シユウ」ではない。③ 「支出」は金品を支払うこと。あるいはその金品。④ 「不和」は仲が悪いこと。⑤ 「故意」はわざとすること。

2

1 イは「指摘された」がおかしい。エ「坂部先生にしかられる」と芳子が思っている様子はない。遅刻自体を気にしていると読むのが妥当であるので、ウのような「くやしき」でもないだろう。

2 「なあんだ、遅れて来たのか」という発言に対して、「厳しい顔」をしている。さらにこの後の、全体に向けて先生がした話の内容から考えるとイになる。

3 本来なら「責任」はないはずである。ただ、遅刻の原因は当然、納豆を売っていたからだろうし、そのことを知ってしまった竜太にしてみれば、何となく自分にも責任があるような気がしたのである。

4 A「息を殺す」は呼吸をおさえてじっとしているさま。Bはお金を表す身振り。Cは相手の話に調子を合わせて、言葉を挟んだりうなずいたりすること。漢字で書くと「相槌」であり、鍛冶で師と向かい合った弟子が、師の打つ槌に合わせて槌を打つことが元になっている。「槌」の「つ」がにこっているのだから、「づ」となる。

5 芳子の境遇を話しているうちに泣き声になってしまったのだから、エは論外。アは「誰よりも早く起き」という部分が不明。イは「必要以上に」という内容が不要。

6 「実際には心を打たれるような大人には、まだ会ってはいない」とあったが、なぜこんなことが書かれているかというところ、坂部先生という「心を打たれるような大人」に、ついに会ったからである。

7 「坂部先生って、すごい！」という思いから、先生に対する「あこがれ」「尊敬」といった心情を抱き、「先生になろう」という考えに至ったのである。坂部先生のどういうところに心打たれたのかというのは――線⑤の直後に書かれている。

8 直前に「やはり」とあるので、この前にも思ったことがわかる。坂部先生の「学校に遅れるということさえ、一概にいいとか悪いとか簡単には決められない」という思慮深さに触れて、改めて「学校の先生になろう」と思ったのである。

3

1 終わりから二つ目の段落に注目しよう。『語彙』は……『何らかの観点』にしたがって、脳内の辞書に『格納』しなければなりません。あるいはすでに『格納』してある語と結びつけるようなかたちで整理して、しまっておかないと……とある。

2 Aは少しわかりにくいですが、「語彙を増やすことを謳っている本はたくさん出版されています」↓しかし↓「そういう本の多くは……語を記憶するというかたちを採っています」(＝実際は語彙を増やす方法としては不十分な本ばかりです)というつながりになっている。Bは「語を記憶するかたち」ともう一つの「かたち」である「クイズ形式」を示している。「あるいは」が入る。ここに「さらに」を入れると語彙を増やすことを謳っている本がすべて「クイズ形式」になっていることになるので入れられない。Cは中身の特徴をその後に付け加えているところなので、ここに「さらに」が入る。

3 逆接の後には筆者の言いたいことが述べられることが多い。筆者が第一・第二段落で紹介した「語彙を増やすことを謳っている本」に対する問題意識がここに込められている。「語を覚える」だけでは語彙になっていないのである。

4 直前の二つの文に書かれている。字数は多いが、空欄前後の言葉もヒントにすればわかりやすい。

5 これがわからないことを「使う『場面』がよくわからない」と表現している。

6 この文章全体を貫いている内容が「語を増やす」Ⅱ「語彙が豊かになる」ではないということである。その考えに合うのはウかエだが、ウのように「価値はない」というと、「入学試験にはもちろん役立つ」「さまざまな面で有用」と矛盾する。

4

最後の段落で地震学者は防災にこそ知識を生かすべきだと主張している。そこに至るまでの「現段階では地震予知はできない」「何がわかっていないかを正直に話すこと」が、科学者の責任」などを組み合わせていくとよいだろう。

以上